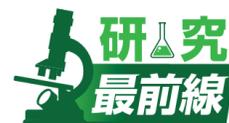


グローバル化やIT技術の進展により、英語をはじめとする外国語や海外の文化に触れる機会が飛躍的に増えている。2020年度から英語が小学校で必修化され、子どもにも身近になってきた。「私たち

は第二言語をどう学んでいくべきか?」「第二言語習得」が専門の高知大学人文社会科学部、今井典子教授に聞いた。

# 語学習得 使って伸ばす



オンラインで Kocchi wide



オンラインで交流する高知大と中国文化大の学生



「語学向上には文法、語彙力が必要」と話す今井典子教授 (高知市曙町2丁目の高知大朝倉キャンパス)

## 海外学生とオンライン交流

コミュニケーションに必要な言語を身につけるには「課題解決型言語活動」が効果的だと考えています。例えば、興味あるテーマを設定し、発表資料を作成、ディスカッションするといったことです。私のゼミでは、国際協働オンライン学習プログラム「COIL」を15年度から取り入れています。海外の大学と取り入

り組むアクティブラーニングという手法です。台湾の中国文化大学と東海大学、インドネシアのプラビジャヤ大学と交流しています。プラビジャヤ大学とは23年度、双方のグループが「パートナー」として第二言語習得の関係(母語と英語の関係性)について英語でプレゼン



第二言語習得について発表する学生

## Let's challenge!!!

次の英文は高知大の学生が「言語習得」のテーマでプレゼンのために作成しました。日本語訳に挑戦してみてください。

I'd like to discuss why Japanese students often face difficulties in speaking English. I believe there are three primary reasons. They are Linguistic Distance, the English environment in Japan (the availability to speak English in Japan), and Cultural Context. Let's start with the first reason, Linguistic Distance. Japanese and English differ in syntax, accent, and intonation. Japanese follows the Subject-Object-Verb (SOV) syntax, whereas English follows Subject-Verb-Object (SVO). Additionally, Japanese has a mora-timed language rhythm, while English is a stress-timed language.

自身の英語運用能力の課題点をあためて認識し、次に向かう姿勢が感じられます。「伝える」ではなく「伝わる」に「どうしたらいいか」を考えたい。自身の感想が寄せられ、ディスカッションを行い、ディスカッションを行いました。学生からは「普段から英語でこのように表現するの意識する必要がある」「自信のなさが目立っていました。日々練習して話せるように努力したい」などの感想が寄せられました。英語は使わないと伸びません。単語をつなげて、ただ話せばいいというわけではなく、伝えたいことを誤解なく正しく伝えるためには、やはり文法、語彙力が必要です。相手を発音を聞くことで新たな表現方法や単語の発見もあふれます。聞くだけでは理解はできても記憶には残らない。自分で使ってみないと力にはなりません。最初はうまく伝えられる不安もあると思う。ただ、うまくいなくても次の機会に向けて頑張っている。やっぱり交流は楽しんでいます。語学力の成長を実感して自己肯定感が高まり、自信にもつながってさらなるステップに

交流を通して語学力や異文化理解は高まり、主体性や実行力、柔軟性などが身につく、学習へのモチベーション向上も期待できます。語学の活用、異文化コミュニケーションや協働は、学生がこれから社会に出た時、より日常的に必要なものになると思います。多様性を理解し、尊重することは、対人関係や信頼を構築する上で不可欠です。ITが発達した今、オンラインで海外の学生とつながることは難しくありません。今後のキャリアにも必ず役立つことと思っています。「英語を使う度胸がついた」と思うまで、ぜひチャレンジしてほしいと思います。

### 昆虫活動中

### 学術活用の標本作り

### 推しスポット

### 10号の極厚トースト話題

#### いきものや

昆虫好きや鳥好きなど、生き物を愛する学生18人が所属する同好会です。最近、部長に就任した僕はカエルとコケ好き。コケを容器にきれいに配置する「コケリウム」作りが得意なので、昨秋の黒潮祭では同好会のブースで教えて好評でしたよ。同好会は、横倉山自然の森博物館(越知町)で標本作りを手伝っていた学生を中心に昨春発足。車にひかれたカモシカやハクビシンなど博物館に寄せられた死骸を預かり、骨格標本にして返すのが活動の中心です。標本にするには、メスで内臓や筋肉を取り除き、骨を洗浄。個体ごとに通し番号を振り、学術的に活用できるよう整えて返却します。学芸員さんからのアドバイスも受けています。中高生の参加もあり、解剖学に触られる貴重な場になっています。この他、生き物の多様性を学べる場にしていこうと高知市の宗安寺や筆山では昆虫の観察会を開

アナグマの標本を作製するメンバーら (高知大学朝倉キャンパス)



催。イベントは「いきものや」のインスタグラムで発信中。ぜひ参加してください。(市川空=理工学部1年)

#### Cafe 食Do ぶぶ屋

一番人気のセット「ぶっといトースト」(730円)はその名の通り、厚さ10号に迫るボリューム。インパクトを求めて店はにぎわっています。私も友達に「本当にぶっといきね」と言われ、恐る恐る初注文。いざ対面し、思わず「デカッ!!」。おすすめの食べ方は、先に内側をほじって食べて、そのくぼみにシロップを注ぐ。ふわふわの食感とカリカリの耳、甘いシロップを堪能できます。店主の上田由美さん(62)によると、15年ほど前の開店当初から続くメニュー。遊び心で加えたそうで、ここ数年はSNSで写真が拡散され、学生ら若い人が急増。お昼前までの営業ですが、なくなり次第店を閉めることもあります。トーストの種類は他も豊富で、マーマレードとチーズを載せたもの、卵とマヨネーズ載せも人気。通常サイズもあるので、小食の方も安心してください。高知市朝倉西町2丁目13の36の1。午前7時半

インパクト抜群の「ぶっといトースト」(高知市の「ぶぶ屋」)



～平日正午、土11時半。日曜、第3月曜休み。電話088・843・2898。(学生広報スタッフ・富永莉央=人文社会科学部2年)

◆第4火曜日掲載

高知大学 × 高知新聞 共同編集